

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成27年度第3回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	平成27年10月26日(月)15時00分～
開催場所	四番丁スクエア1階会議室
議 題	(1)平成27年度高松市伝統的ものづくり振興事業について (2)平成28年度高松市伝統的ものづくり振興事業について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	5 人 池田委員、香川委員、泉川委員、谷委員、本多委員
傍 聴 者	0 人            (定員 5 人)
担当課および連絡先	産業振興課創造産業係 839-2411

### 審議経過および審議結果

(事務局)  
開会のことば

～事務局より議題説明～

(1) 平成27年度高松市伝統的ものづくり振興事業について  
     ①報告事項  
     (ア) 夏休み親子体験教室  
     (イ) ミラノ万博トップセールス事業  
     (ウ) 人材育成県外派遣事業(金沢市)  
     (エ) その他進捗状況

(2) 平成28年度高松市伝統的ものづくり振興事業について  
     ①審議事項  
     (ア) 新規事業について

(3) その他

～事務局より議題(1)について資料をもとに報告～

(委員)  
     報告事項(ア)の夏休み親子体験教室の広報・周知方法はどのようにおこなったのか

(事務局)  
     市等が実施しているその他の夏休み中の子ども向けイベントとあわせて1枚のチラシにして市内の全小学校に配布した。学校からの配布物として保護者の目に必ず触れるものであるため、効果的であったと感じている。

審議経過および審議結果

(委員)

倍率も高いようであり、もう少し、人数の拡大ができればよいのではないか。

(事務局)

開催回数や予算も含め検討していきたい。

(委員)

人材育成県外派遣事業の派遣先で訪れた販売店舗をみると、クラフトギャラリーのような店舗に偏っているように見受けられるため、デパート等の一般小売店舗にも販売の様子を視察に行ったほうがよいのではないか。

(委員)

派遣された人の感想やフィードバックを同業種や後輩の人たちが聞けるような機会があればよい。

(委員)

派遣事業自体は良い取り組みであると思うが、報告のみで終わらないようにしなければならないと思う。

(事務局)

今回の派遣メンバーは、メンバー同志の結束が強くなっており、出発前後にも行政主導ではなく自主的にミーティングを重ねるなど、異業種間の意見交換等、積極的な姿勢がうかがえた。今回の派遣事業の参加者には、次年度の新規事業の1つとして予定している、伝統的ものづくり産業観光事業を見据え、出発前のミーティングでは、金沢市の伝統的ものづくりの観光事業へのアプローチや現状のヒアリング等を課題としていた。都市それぞれの具体的な課題や、産業の現状、共通点など、今後の取組みに生かしていけるような報告を受けることができた。

(委員)

職人や販売機関のネットワークは当人同士だけでは築いていけないので、行政が基盤作りをしていくことが必須である。行政のネットワークを牽引する力や今後どのような事業を行うか等の計画的な視点とビジョンが必要である。

(委員)

瀬戸内国際芸術祭は県外からの観光客が増え、伝統産業についても知名度を上げて販売を拡大するための良い契機になると思う。

(委員)

瀬戸内国際芸術祭の期間中のみならず、ワークショップをいつでも開催できるようにすればよいと思う。観光と結び付けるのが欠かせないのではないか。

(委員)

外国人を受け入れるようなゲストハウスを営む若者も市内に育っており、経営者によると稼働率も伸びているようである。インターネットでの国内外へのPR等も含め、そのような人々と協力するのも効果的なのではないか。

～事務局より、（２）平成２８年度高松市伝統的ものづくり振興事業  
審議事項である３つの新規事業について説明～

（委員）

先日新聞で高松市が創業支援の認定を受けたことを読んだが、伝統的ものづくりに関してもその支援内容を効果的に活用していけたらよいと思う。

（委員）

市として、文化施策・産業施策のどちらにスタンスを置いて施策を行っていくのか、従来の伝統的ものづくり産業の支援とどう差別化するかを明確にした上で事業の内容の検討をしなければ指針がぶれてしまう。

（委員）

盆栽、漆器など各業界においても、やる気のある若手は多くいるため、彼らが活躍できるような環境を整えることが必要であると考えている。

（委員）

来年、本県での開催が予定されている、G7 香川・高松情報通信大臣会合において、高松市として何か行うことは予定されているか。

（事務局）

現在、県に設置されているサミット準備室に本市からも職員を派遣しており、連携して準備をすすめている。

（委員）

洞爺湖サミットでは、FUNFAN というアートと伝統のコラボレーションをさせた丸亀うちわの展示をし、海外の参加者に注目を浴びていた。うちわを持ち帰る人々に聞くと、インテリアとして飾るとの声も多く聞かれた。このように、本来の用途のみに限らず、さまざまな切り口から伝統的ものづくりをPRできるとよいと思う。

（委員）

丸亀うちわを使った、FUNFAN プロジェクトは、成功事例であると思う。産業振興の視点から補助金を出す際、事業を行う前ではなく、自費で行って成果を出した事業者に補助金を出すという方法は取れないか。

（委員）

現在は、個人を対象とするのではなくあくまでも組合などの団体に対しての補助金を出すという状況になっているため、あまり有効な活用がなされていないように感じる。今までどおりの内容にならないよう十分に検討してほしい。

（委員）

新規事業として挙げられている補助金の案をみると、販路開拓事業とブランド力向上事業に対するものに比べ、後継者育成に対するものが手薄になっている感が否めない。支援策の効果を明確にするためには従来の補助金による支援策と差別化をすることが必要であると思う。

(委員)

ワークショップの開催をはじめ、伝統的ものづくり産業観光事業については、瀬戸内国際芸術祭の時期だけではなく、継続的に力を入れていただきたい。瀬戸内国際芸術祭についても、島々に限らず、高松市内での開催を希望する。

(委員)

今回の瀬戸内国際芸術祭は、サブテーマとして「食」が挙げられているため、そこに伝統産業をうまく絡めていくとよいのではないか。

(委員)

以前、県の補助金で漆器を飲食店等に貸し出すという事業があったと思うが、今回の瀬戸内芸術祭でも、そのように漆器をPRする機会を作ると良いと思う。国内外から多くの観光客が訪れる好機であるため、ぜひ活用されたい。

(委員)

結果に対しての補助を検討できないか、コンペや優秀作品への表彰や副賞など、頑張った人に光が当てられないだろうか。

(事務局)

いただいたご意見を踏まえ、補助金や観光PR事業等について、内容を検討していきたい。